



発行：NPO法人とよなか市民環境会議『アジェンダ21』  
編集責任者：奥野 享  
事務局：豊中市環境情報サロン内  
〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3  
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

### この号のハイライト

P.1 総会/P.2 未来の森づくり  
/P.3 男性のゴーヤ料理/P.4  
わいわいクラブ/P.5 交通部会  
/P.6 竹炭プロジェクト/P.7  
とよなか市民環境会議/P.8 今  
後のスケジュール

2010年(平成22年)秋号 NO.32 (通巻第50号)

## 6月に開催した3つの総会から

6月16日13時30分には豊中市民会館で、開かれたとよなか市民環境会議総会とNPO法人アジェンダ21の総会、それに併せての記念講演がありました。また6月29日には花と緑のプロジェクトの総会も開かれました。それらの全体を概観して報告にでてきた数量に注目しながらまとめてみました。

### 記念講演ととよなか市民環境会議総会

今年の記念講演は、「国際生物多様性年」でもあり、名古屋で開かれる生物多様性条約締結国会議にちなんだ講演が行われました。講師は兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授の中瀬勲さん。

地球上には未知の生物も含め約3000万種の生物がいると推測され、そのうち知られているのは約175万種に過ぎないと言うことで、われわれの活動範囲がいかに小さいかを思い知らされました。

とよなか市民環境会議の総会では、第2次豊中アジェンダ21の策定について1年間に市民ワークショップを9回開き、延べ137人の参加者で討論がなされたと報告。従来になかった取り組みでした。



### NPO法人アジェンダ21の総会

正式名称は特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21。総会の報告は、環境展など全体の活動

にはじまり4部会・4プロジェクトとその他の活動について、多岐にわたる内容が説明されました。活動したスタッフの人数は延べおよそ2400人。

行事の参加者は4200人程でした。

アジェンダ21の会員は約150人ですが、この中の活動家が休日を除く毎日ほぼ10人ぐらいは活動しているのですから、随分のヒューマンパワーです。そしてそれに倍する行事への参加者です。このほかにカウントしにくい、エコライフカレンダーのモニター200人が毎月のエネルギー関連の消費についてデータを出すという地道な活動もあります。ボランティアで参加しているこのような市民の皆さんに心からお礼を申し上げなければ、と思いました。

### 花と緑のネットワークの総会

花と緑のネットワークとよなかの総会は6月29日の午後に花とみどりの相談所講習室で開かれました。総会資料はアジェンダ21の報告書をしのぐ76ページで、盛りだくさんな活動内容でした。目につくのは堆肥〈とよっぴー〉の利用量の多さで、造られた123トンのうち有償頒布93トン、その他は市の事業所、協力農家、イベントでの配布などに使われています。

堆肥化講習会と相談会も力を入れている運動で、年間延べ22回、193人の参加がありました。地産地消の運動や学校・幼稚園への菜園支援、花いっぱい運動など厚みのある活動が感じられました。



(奥野)



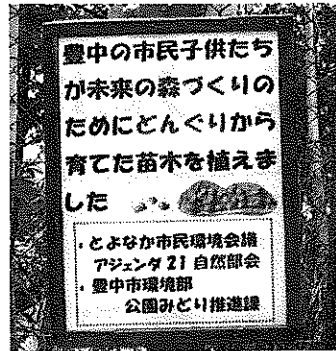
自然部会

## 未来の森づくり

少し前になりますが、未来の森づくりのための植樹が5月22日千里中央公園で市民子ども達28人が参加して行われました。

これは豊中に緑（樹木）を増やし地球温暖化防止と生物の多様性を図ると同時に子供達にこのことを考えてもらうことをテーマに実施したものです。作業の流れは10月にドングリ（クヌギ、アヤマキ、コナラ）拾い、12月の環境展で竹ポット植付け、約1年半それぞれの自宅で養生生育観察をしたのち植樹するというものです。

今年の植樹は2008年の環境展で竹ポット植付けしたもので、タイミングよく国連が定めた国際生物多様性の日（毎



年5月22日）に実施することができました。今回は竹ポットの苗木を途中枯らした人もかなりいて、環境展では60個の竹ポット植付けを行いました。植樹できたのは36本でした。

10月11日より名古屋市で国連の生物多様性国際会議（COP10）が開かれます。生物多様性というのは一般に余りなじみがないかも知れませんが、温暖化にらぶ地球環境の重要な課題です。未来の森づくりを通じてこのことに大きな関心をもってもらう良い機会だと思っています。

2008年、2009年に続き2010年の環境展でも第3回目の竹ポット植付けを行って、市民子ども達に参加を呼びかけたいと考えています。

（佐々木忠弘）

## 服部緑地「菰ヶ池の生き物を見つけよう」 自然ふしぎ発見クラブ

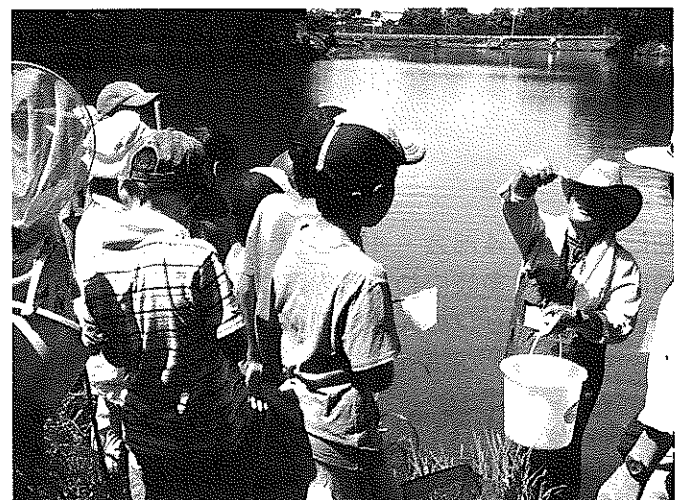
7月25日（日）梅雨明け十日と言われる猛暑の続く中、「服部緑地の自然を育てる会」との共催で生き物調べが親子40人参加で始まった。

気温33.5℃、水温33℃の暑さをもろともせず、タモやバケツを手に入って行った。すくい上げたタモの中を覗き込む子ども達の目はキラキラと輝いていた。そこには、トウヨシノボリ・ヒメタニシ・スジエビが。開始前8時にスタッフが仕掛けたモンドリには、スジエビ・モツゴの在来種が多く入っていた。

特定外来種のブルーギル・カダヤシはこれまでより数が減っていた。

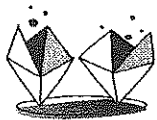
保護者からきれいな池とは思えないと意見が出され、育てる会の代表蒲田さんがこれまでの取り組みを話された。

水路を掘り、6～7カ所に木でダムを作り雨水の有効利用を考え草地の手入れを続けて来た。ダムに溜まった雨水が広場に浸透して草地が少しずつ広がってきた。今回の調査で在来種が増加しているため池と魚とはい関係になってきている。人工的な浄化設備を使わず



冬期に池の水を抜いたり、水路や草地の手入れを続ける中で池の浄化を進めていきたいとのことでした。

解散と同時にトンボの飛び交う広場に飛び出して行った子ども達に、生き物がたくさんいる自然環境をプレゼントとして行きたいものです。（馬淵康子）



花と緑のネットワークとよなか

## ゴーヤ料理に男性が挑戦！

7月17日（土）、中央公民館料理講習室で男性だけのゴーヤ料理の講座を開きました。昨年、ゴーヤの苗の配布にあわせて料理講座を行いました。好評であったことから、これを発展させて今回は男性に限定して実施したものです。

応募者は8人、花と緑の女性メンバーを助手にゴーヤのレシピをもとに4品目の料理に挑戦しました。日頃はお味噌汁程度しか料理の経験のない男性もあれば、手際良く包丁を使う人もおられ、和やかな雰囲気の中で次々にゴーヤ料理を仕上げました。

時間の制約もあり、仕上げた料理は①ゴーヤチャンプル ②ゴーヤの酢味噌和え ③ゴーヤのかき揚げなどで、炊きたてのご飯をほおぼりながら試食をしました。

この集いにはフランスの学生さんも参加。世代を超えた異文化交流もありました。日本に関心があり9月一杯まで各地を訪れるとのこと。ゴーヤをフランスでも育てたい意欲を語られていました。

初めての試みに男性が集まるか懸念していましたが、杞憂に終わり、少数の参加でしたが中身の濃い料理講座になりました。「参加するまでは不安でし



たが、何とか手伝っていただき終了することができました」「和気あいあい楽しかったです」「季節のゴーヤ料理を教えていただき、大変勉強になりました」「次の機会にも参加します」などの感想を頂きました。

「男子厨房に入らず」は遠い昔の話です。男性もしっかり料理の腕を磨く時代です。ちょうどゴーヤは夏バテ防止に最適、秋口には家庭で挑戦していただけることを期待して終わりました。

（中村義世）

## 給食残渣類のすべてが資源化に（学校給食の裏側から）

豊中市緑と食品のリサイクルプラザでは、一昨年から給食献立に出された「残パン」の堆肥化実験を進めていました。週3回1日約300kg～400kg出るパンを投入することで機械のシステム障害や作業に過度な負荷がかからないか、また、どのような形状で投入するのがいいのかなど試行してきました。

検討の結果、豊中市は今年の7月から服部学校給食センター内に粉砕機を設置し、パンを粉状にし、堆肥化施設の機械に投入することになりました。これで給食センターから発生する給食残渣類は焼却処理されることなくすべて再資源化することになりました。

課題は、食べ残しのパンがこれ以上多くなると、機械への投入ができずに、熟成過程のとよっぴーへ直接投入する作業が増え、週2回の米飯の投入との発酵バランスも懸念されるそうです。

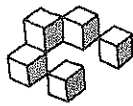
花と緑のネットワークは、とよっぴーを農家や市民の皆さんに使用していただき野菜や花作りに活用

してもらい、食や資源の循環活動をすすめておりますが、もともと資源や食糧を無駄にしないということが大切です。私はアジェンダ21として平成22年度も豊中市食育推進協議会の委員をお受けしていますが、昨年度豊中市が行った食育基本計画策定の年代別アンケートで、「食べ残さないという意識」が、幼児を持つ若い世代の方は他の年代より低いという回答結果が出ました。食べ物がある豊かな時代に育った世代の方だから当然の結果ともいえます。

ただ、今後増え続ける地球規模の人口と対応する食糧事情を考えたとき、輸入に6割依存している日本人として、これからの世代を生きる若い方こそ食糧問題は重要問題だと思います。

23000人の小学生たちや保護者の方にとよっぴーや身近な学校給食から、もっと、食に関心を持ってもらえるよう、私たちの活動も試行錯誤が続きます。

（高島邦子）



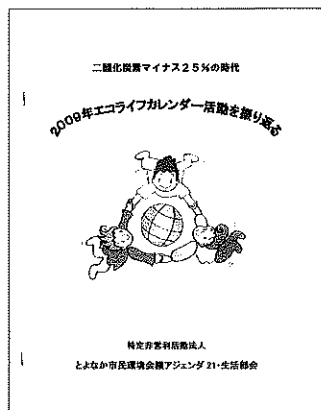
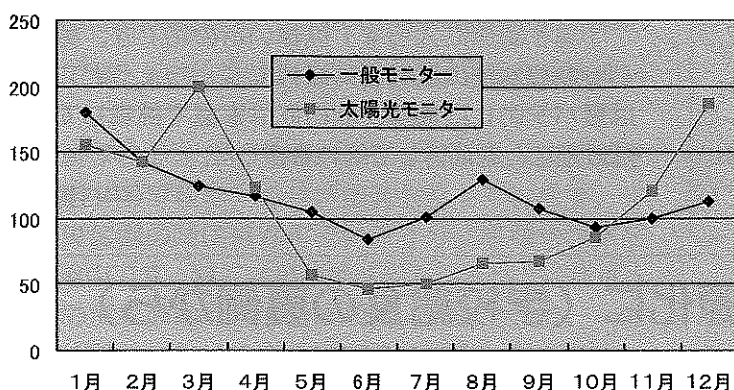
生活部会

## 昨年の環境家計簿活動のまとめができる

エコライフカレンダー(豊中版の環境家計簿)の活動も2年前から太陽光発電を設置したモニターが増えてきたことで、少しずつ様相が変わりはじめています。とくに2009年は豊中市が補助金を出すようになった2年目であり、政府からの補助金もでることになり、1年間に太陽光発電を設置したモニターは70人に達し、モニター総数213人のうち33%を占めるまでになりました。もちろん豊中市から補助金を受けた方に市としてエコライフカレンダーのモニターになることをお願いしてもらっているからですが、今後さらに太陽光発電をつけたモニターが増えることが予想されます。

そのような状況変化のなかで、今回のまとめでは、

一般モニターとの電気CO2排出量の比較 (kg/月、CO2)



太陽光発電設置のモニターについては従来のモニターとは別のグループに分けて集計を試みました。分かったことは次の3点でした。

①従来からのモニターと太陽光発電モニターとは、家族構成の比率が異なり、1人、2人世帯が少なく3人以上

の世帯が圧倒的に多くを占めていました。

②関連するのですがエネルギー消費の構造にも大きな差があり、平均してガソリン使用なども併せエネルギー多消費型の生活スタイルが感じられました。

③太陽光発電は、暑い季節に最も効率よく働くので、グラフに見る通り従来のモニターと比べると、1年を通しての電気を購入したサイクルの違いはCO2に換算した表にも表れました。

今後、太陽光発電を家庭で設置する傾向はますます大きくなっていくでしょうから、私たちも新しい状況に即してより積極的な取り組みが必要なことを痛感しました。

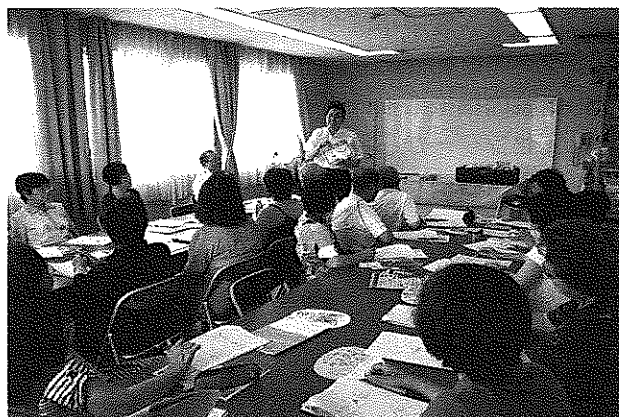
(奥野)

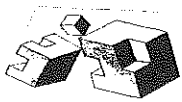
## わいわいクラブで学習会「野菜の上手な保存方法」

7月16日10時から、環境情報サロン2階で〈野菜・果物の保存方法〉をテーマに学習会を開催。

講師はコープこうべで青果物を担当している松下弘樹さんと小野泰央さん。季節的にも身近で具体的な話であり、参加者21人はいろいろな野菜の性質も含めた説明に耳を傾けました。例えば、キャベツやレタスは芯をくりぬいて冷蔵庫の野菜室に保存すれば長持ちするという話も、芯の部分の成長ホルモンの働きを抑えるという説明があり納得。

最後に、兵庫県の農場でその日の朝収穫したばかりの小松菜(参加費の中から用意する)をいただき、その日の夕食にと持ち帰りました。(奥野)





交通部会

# 自転車バランス王座決定戦

8月8日(日)、交通部会の活動の一環として、豊中まつりの「I Love Toyonaka ステージ」にて「自転車バランス王座決定戦」を開催しました。自転車バランス王座決定戦とは、狭い枠(1.5m×3m)の中で自転車に跨り、足を着かずに、枠から出ずに、どれだけガマンできるかを競う、オリジナルの簡単なバランスゲームです。

今回は特別に劇団ウェスト(豊中市末広町)のメンバーに手伝っていただいたこともあって、とても楽しいイベントとなりました。小学生くらいのお子さんからお父さんお母さんまで、家族の声援を受けながら、約30名の参加者がステージ上でタイムを競います。上位10位までに賞品を用意し、1位の方から好きなものを選んでいただくのですが、その賞品選びにも家族の意見が・・・(笑)

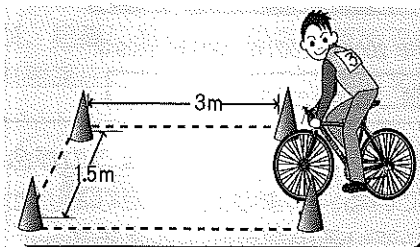
交通部会としては、自転車シミュレーターを用いた「交通環境学習」とともに、この自転車バランス王座決定戦を、地域の様々なイベントで開催していく予定。



<今後の予定>

- 9/19(日) とよなか市民文化会議”とよぶん”(阪急豊中駅前人工デッキ)
- 9/26(日) 第4回わくわくフェスタ(豊中自動車教習所)
- 10/11(祝) 体育の日記念事業「ぶんぶん広場・遊びの広場」(青年の家いびき)
- 10/16(土) とよっぴー祭り

そして今年環境展の中では、12月11日アクア文化ホールにて、自転車バランス王座決定戦を軸とした交通安全イベントを企画しています。自転車利用の促進や利用マナーを伝えるために、様々なイベントに参加させていただきますので、ご興味のある団体の方はお問合せください。(山本一夫)



## バランス競技会って何?

せまいワケ(1.5m×3m)の中で自転車にまたがり、どれだけ足をつかずにガマン出来るかに挑戦する競技会です。上位入賞者には景品あり!

## 環境とわたし

《26》

### 宮田 健さん 生活部会

いでしょうか。

最近身近な小動物の写真撮影にはまっています。回を重ねるうちに今まで見えなかった自然の営みが見えてきます。驚きの連続です。子育て、縄張り争いや、必死に獲物を捕らえる瞬間を目の前にと、生きる厳しさ、彼らが懸命に自分の命を生きているのだ、彼らの声にならない声伝わってきて共鳴し、生きる実感、厳しさ、喜びを与えてくれます。彼らが安心して暮らせる場所は人間も快適な環境です。大事にして行きたい。



早いもので環境会議の運動に参加して、14年が過ぎました。ニュースレターのバックナンバーを見ると、環境との関わりの自分史をみているようです。ワーキンググループでアジェンダ作成に夜遅くまで熱気のもった論議を重ねたことなど、そうした中で育まれた新しい人間関係は、新鮮で刺激的ではありません。98年から始まった環境家計簿運動は紆余曲折しながらも09年モニター参加者は200人を超えました。モニターさんのご協力と運動を支えてくれている関係者に感謝。

昔の仕事仲間に、無償のボランティアをよくやっているねと、冷やかされたことがあります。無償であるが故に好きにできるし、やり甲斐に通じるのではな



## 竹炭プロジェクト

# いい汗かいています

嵯峨野の竹林散策は観光客に人気があり、嵐山の定番コースになっています。これは竹林の手入れが行き届き綺麗に整備されているため見た目にも美しく、心地良い風の音、鮮やかな緑、竹から出るマイナスイオン等脳をリフレッシュする癒し効果がある



からです。(一説によれば森林浴よりも効果が高いとか)

竹炭プロジェクトでは、現在千里中央公園と新千里北町(千里緑地)の竹林整備を行っています。千里中央公園の間伐は進んでいますが北町緑地はまだ実施途中です。特に北町緑地は手入れされていなかったため荒れ放題で緑地全体が暗い状態でした。一昨年より開始し半分位まで初期整備が進んでいます。

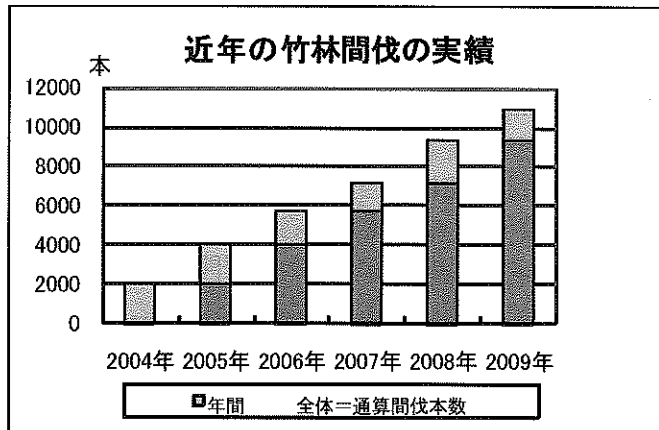
孟宗竹は高さが20mにもなり、切るのも力仕事になります。しかし太い竹を切り倒すわけですから倒したときの爽快さは何とも言えません。汗で全身ビショビショになりながら、また蚊の襲撃に会いながらの作業です。ムリをせず、ケガをせず、楽しく思い切り汗を流す、竹炭プロジェクトのモットーです。

作業が進み、順次緑地が明るく見た目にも綺麗になっていく景色を見ると、ますますファイトが沸いてきます。単純でしんどい作業ですが知らず知らずのうちに徐々にハマってしまいこれが竹の魅力かもしれません。

現役時代は力仕事をしたことがなく、リタイヤ後に重労働(?)を経験し心地よい疲れと運動不足の解消、体のストレスが全部何処かへいってしまい、作業日の夕食のビールが何と美味しいこと、毎月の作業日が待ち遠しい。

豊中市は竹林が多く存在していますが、都市部でこれ程多いのは全国的には珍しいのではと思います。東京方面では都市部で竹林は余り見受けられないと聞きます。知り合いに竹林間伐のボランティアをしている話をすると皆に羨ましがられ、得意になって自慢話をしています。木と竹のバランスのとれた緑地が多く存在しているのはたいへんな魅力と思っています。(岡本武司)

## 間伐した竹が1万本を超えた



「間伐した竹が1万本を超えた」と言うのが合言葉のようになっている。「よう頑張ったなあ」と一つの達成感を感じているのが伝わってきます。

竹炭プロジェクトが、意識して竹伐りを活動に取り入れたのは2001年からでした。その中でも作業の成果が数字として見えてきた頃からの実績をグラフにしたのが、上の図です。最近では1年に2千~3千本ぐらいを伐っているのが解ります。

野外での活動は、竹炭焼きが夏場を除き年に10回で1回に2日ずつ。竹伐りは月に2~3回。今では登録メンバー20人。「豊中の公園が竹藪だけではなく他の木と混ざり合った豊かな自然になればよい」と言うのが皆の思いだそうです。(奥野)

## 環境クイズ

COP15などの世界環境会議では、先進国と途上国との責任で議論が分かれますが、例えばインドと日本を比較すると、1人あたりのCO2排出量にどれくらい違いがあるでしょうか? (答えは8ページ)

日本はインドの ① 2倍 ② 5倍 ③ 9倍



# とよなかエコ市民賞2010

-環境活動団体を募集します-



## とよなかエコ市民賞って、なに？

とよなかエコ市民賞は、市内で環境負荷の低減、自然との共生、快適環境の創造などに取り組み、継続した活動実績や特に顕著な功績が認められる団体を、「とよなか市民環境会議」（会長：浅利敬一郎豊中市長、141 団体）が表彰し、市民の環境活動の輪を広げようというものです。

## 表彰されるのは、どんな団体？



### 【応募資格】

下記の(1)(2)のどちらかの要件を満たす団体。

(1)環境報告書「とよなかの環境 I」に活動実績が掲載されている団体。

(2)一定期間の活動実績（下表）があり、将来にわたり継続する見込みがある団体。

（「とよなか市民環境会議」構成団体の推薦が必要です。）

### ・活動実績年数

活動の頻度	継続年数
毎日の活動	1年以上
毎週の活動	2年以上
毎月の活動	3年以上
毎年の活動	5年以上

※なお、左表の年数を満たしていない場合であっても、その活動が特に顕著で多大な成果があると認められる場合は、この限りではありません。

市内で下記のような環境活動を行っているグループや団体、事業者、学校、施設など、おおむね5団体を表彰します。

- 循環型社会形成につながる取組み
- 省エネルギーの推進
- 温暖化防止につながる取組み
- 自然環境の保全にかかわる取組み
- その他環境にかかわる取組み

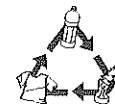
## いつ、どうやって表彰されるの？

平成 23 年（2011 年）2 月 16 日（水）に予定されている「ストップ地球温暖化デー」の催しで表彰します。

よし！応募しよう！



- ・応募要領・応募用紙は、豊中市役所環境政策室にあります。
- ・また、豊中市のホームページ (<http://www.city.toyonaka.osaka.jp/top/kankyuu/index.html>) からダウンロードできます。
- ・締切は **2010 年 9 月 30 日（木）（消印有効）**



## 環境フォーラム

入場無料！

一時保育あり  
(有料・9/14 迄  
に事前申込み)

「とよなかの環境 未来への道しるべ  
～みんなでできること、わたしにできること～」

と き：2010 年 9 月 18 日（土）13:30～16:30

ところ：リサイクル交流センター（中桜塚 1-24-20）

【第1部】豊中の環境の現状報告

「とよなかの環境 I ～2009 年度の活動実績～」報告

【第2部】「豊かな暮らしって？-もの・心・時間-」

近畿大学経済学部総合経済政策学科教授 坂田裕輔さん

【第3部】質問&交流タイム

主催：豊中市

共催：とよなか市民環境会議・NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21

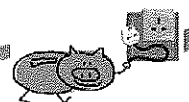
問合せ・保育申込み先：豊中市役所 環境部環境政策室 TEL 06-6858-2127

### ～省エネにむけて


昨年度に引き続き、地球温暖化対策事業として、省エネ相談会・省エネ診断を実施しています。


省エネ相談会は、市内の商店街のイベントなどで開催しており、省エネ診断は、事務局（NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21）にて申込受付中です。


参加者へは、エコポイントチケット「とよか」をお渡ししています。（「とよか」については前号参照）是非一度ご参加いただければと思います。





## スケジュールのお知らせ


 おもちゃ病院 (10月、12月)  
第2土曜日 10時~12時  
環境情報サロン (12月は環境展会場)

 とよっぴー有料頒布  
(9月~11月)  
第2土曜日&第4水曜日 10時~11時  
緑と食品のリサイクルプラザ  
(12月は休みます)

 秋の鳴く虫観察会  
9月17日(金) 18時~20時  
服部緑地東中央広場集合

 自然ふしぎ発見クラブ  
「バッタをとばしてイ！ニ！サッ！」  
9月25日(土) 10時~12時  
服部緑地レストハウス前集合

 とよっぴー地産地消野菜市  
9月30日(木) 10時~11時  
さわ病院

 機密書類を集めてリサイクル  
10月19日(火) 11時~12時  
個人情報など機密書類をクリーンランドに搬入  
溶解処理(再生)施設に持ち込む

## 編集室から

▼この夏の猛暑にかつてなく体力を消耗した。〈熱中症〉の言葉が身にしみ、水分補給のボトルを持ち歩く習慣ができた。以前は〈熱中症〉という言葉がなく〈日射病〉だったが、それも病理の知識が進んだからか、最近の私たちがひ弱になったからか。(Z)

▼8月1日に、阪大の大木古木の観察会に参加。アオギリにニイニゼミ。ヤブカラシにアオスジアゲハ。椿には大きな実と自然がいっぱい。メタセコイヤとセコイヤを比べると木の特徴がよくわかりよかったです。暑い日でしたが大樹のそばに行くと心を和ませてくれました。(H)

▼7月16日(金)朝、我が家の玄関に通じる小さな石段でくま蟬のさなぎが羽化しました。すでに朝日が射して暑い。すぐに蟬の赤ちゃんを前栽の木に移してやりました。蟬の命は短命、その間を精一杯生きてね！生物の命の誕生の尊さを重く感じました。(S)

▼先日、母校が出場した吹奏楽コンクールの応援に行きました。会場に響くプラスサウンドが現役時代の記憶と重なり、懐かしさと同時に一音に全てをかけたあの暑い夏はもう二度と来ないんだと、少しの切なさも胸に響いた、とある夏の日でした。(M)

▼先日、自動車保険の更新の際に「個人賠償責任」という特約を追加しました。最近、自転車加害者になり、高額な賠償責任が増えている話を何度か聞いたからです。各自動車保険はこうした特約がついていることが多く、少額で追加できるので、皆さんもご検討ください。(A)

▼長男は5歳からサッカー一筋。高校もサッカーをするため、大学もサッカーのおかげで進学できたようなもん。ところが社会人になり職場の先輩から毎日のようにスカウトされ、とうとう…。社会人野球にハマりつつある。(P)

### 環境クイズのこたえ ③ 9倍です。

国別にみたCO2排出量では、日本とインドとはほとんど同じくらいなのですが、1人あたりに直すと大きな差があります。中国との比較はやや小さく、日本は中国の2.3倍です。(「豊中市地球温暖化防止地域計画、ダイジェスト版」第2版による)

### 《広報チーム》

Z奥野、H岡、S猪尾、M森山、A廣田、P大村

ホームページのアドレスが変更になりました。  
お気に入りなどの変更をお願いいたします。

<http://toyonaka-agenda21.jp/>

Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)